

( 令和5 ) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

( 城南 ) 児童館

	活動の基本目標 (指針)	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活 援 助 機 能	<p>安全・衛生の確保</p> <p>健康の管理・情緒の安定</p> <p>基本的生活習慣の確立</p> <p>社会生活技術の獲得</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い、うがいの励行、衛生管理</li> <li>・連絡帳提出、宿題、読書</li> <li>・あいさつ、言葉づかいの指導</li> <li>・毎日の検温記録の徹底</li> <li>・ロッカーの整理整頓</li> <li>・後片付け、掃除の指導</li> <li>・下館時の安全指導</li> <li>・静かな遊びの時間の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰館後の規則正しい流れを身につけさせるとともに、職員、友達への言葉づかい、自分の持ち物の整理整頓が少しずつできるようになった</li> <li>・学習時間を設けているが、自主性を図るためにも強要せず、遊びを優先する子の思いを尊重することで、自由時間の合間に自ら学習に取り組む姿がみられた。大学生による学習支援活動として「まなベル」が新たに加わることで学習意欲が芽生える子どもたちが徐々に増えてきた。</li> <li>挨拶をしないことを叱るのではなく、笑顔でゆったりと挨拶をし続けることで、少しずつではあるが挨拶をできるようになってきている。</li> <li>・子どもの情緒安定を図るため、健康状態や行動に気を配る 保護者との連携を密にするように心掛けた結果、信頼関係が築けた</li> <li>・家庭において基本的な生活習慣ができていない子どもに対する取り組みの難しさを感じる</li> <li>保護者を巻き込んで取り組めれば良いが、家庭によっては保護者の理解を得がたい 館で最低限のルールを教えていきたい</li> <li>・人数が多い班は街区の中で班を分割し、臨機応変な帰宅班の編成を実施したが、道中で合流や身勝手な行動をとる子の姿もみられるため、自身の振り返りも含めて安全指導を定期的に行うことが必要。</li> <li>・子どもは自分の体調不良に気付きにくいことに配慮して、今後も続けていく</li> </ul>
子 ど も 育 成 機 能	<p>生活体験の拡大</p> <p>社会性の養成</p> <p>自立の促進と自主性の尊重</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介助者の受け入れ</li> <li>・季節行事の準備、練習</li> <li>・各行事への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員だけでなく、地元在住である介助者との交流により、地域にも子ども達の目が向いた</li> <li>・個々の自主性を図る機会設けることで、自信や活力を見出す結果につながった。</li> <li>・仲間意識が芽生え、リーダーが生まれ、遊びのルールを教えたり、トラブルの仲裁をする姿も見られるようになった</li> <li>・準備や練習を通じて、集団生活に必要な協調性や、ルールを守ることの大切さ、友達を大切にすることなどの社会性が少しずつではあるが養われた</li> <li>・生活の節目となるような行事を取り入れ、仲間と楽しむことができた</li> <li>3年生以上が「自分たちだけが楽しければ良い」という考え方が数人いるので、その考えを改善すべく、「ひらめきこども企画」を通じて自発的に取り組む子どもたちが増えてきた。</li> </ul>
子 育 て 支 援 機 能	<p>子育てに必要な情報の提供と交換</p> <p>子育ての仲間づくり</p> <p>子育てを支えるネットワーク形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童クラブだよりと学校・学年だよりの交換</li> <li>・小学校の運動会や自由参観への参加</li> <li>・保護者懇談会</li> <li>・小学校担任との児童に関する情報交換等の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学童メンバーの様子を知らせるツールとなっている。可能な限り、小学校行事や児童館行事を互いに観覧する機会がある。</li> <li>・便りを持参する時に、小学校や地域の方と顔を合わせる機会になり、連携をとりやすい関係を築けた</li> <li>・児童館では見られない小学校での様子が見られると共に、職員が見に行く事で子どもたちは喜び、信頼関係につながる</li> <li>・家庭では見られない子ども達の様子を伝える事と、職員が子育ての応援者である事を伝える機会となった</li> <li>参加する保護者の人数が少なかったため、実施日を土曜日の午前に設定することで出席率が高くなった</li> </ul>

( 令和5 ) 年度 学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書

( 城 南 ) 児 童 館

行事名	実施回数	学童クラブ児童						登録外児童		ボランティア			その他	合 計	内 容	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1～3年	4～6年	中高生	大学生	大人				
(1)生活援助機能 ・挨拶指導 ・衛生指導 ・当番活動指導 ・基本的な生活習慣指導 ・学習習慣づけ指導 ・ロッカー掃除	随時	6	4	1	0	3								対象児童数	14	・特に基本的な「躰」とされる部分に重点を置いて、指導を行った ・挨拶は4月当初より、みんな自然にできるようになってきた ・消毒・手洗いの徹底が出来た ・自分たちのロッカーを綺麗に掃除する
	随時															
	随時															
	随時															
	随時															
(2)子ども育成機能  ・入会・進級お祝い会 ・お誕生会  ・伏見こどもまつり参加 ・進級記念工作  ・卒会・進級お祝い会 ・修了証書制作  ・子ども会議 ・掲示板制作 ・京都やんちゃフェスタ参加 ・とんどまつり (3)子育て支援機能 ・統合育成会議 ・地域懇談会参加 ・子供ネットワーク会議参加 ・入会説明会 ・保護者懇談会 ・保護者懇談会・懇親会	1回	7	5	3	1	2								対象児童数	18 181  10 21 3 16 1 0 0 0	・新入会生にメダルのプレゼントをして、学年ごとに前にお披露目をする。新入会を歓迎するとともに、学年が1つ上がったことを自 ・毎月、その月生まれの子どもの誕生日を仲間で祝う  ・卒会・進級の記念として、絵付け皿制作を行った。 ・卒会・進級証書授与及び特技披露（けんだま・手品）をする希望者を集い、キッズダンスを含めた発表を行う。 ・児童自らの発案により、修了証書制作を行った。低・中・高学年によって文章が異なり、見応えある証書となった。 ・行事に向けて、3年生以上で会議を行い、企画・準備・運営までを自分たちで行う。
	8回	79	49	22	6	13			1	11						
	1回	3	3	2	1	0	1									
	年度末随時															
	1回	8	6	2	1		2				2					
	3回						3									
	随時			5	3		8									
	1回						1									
	開催中止															
	開催中止															
	随時															
	随時															
	開催中止															
													対象家庭数			
													対象家庭数			
													対象家庭数			

\*注1 行事名は、(1)生活援助機能 (2)子ども育成機能 (3)子育て支援機能に分類して記入すること  
 \*注2 2クラス以上の館所で、クラスごとに異なる取組・行事を実施した場合は、行事名と併せて、クラス名を記入すること